

除染後作付け初年目の水田では、 2回の代かき作業により均平精度が向上する

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証

研究課題名 湛水直播栽培による飼料用米生産の実証(川俣町)

担当者名 松木伸浩・矢ヶ崎泰海

I 実証技術の解説

1 要旨

湛水直播栽培において重要となる田面の均平精度について、除染後農地(表土剥ぎ及び客土)の状態に不安を持つ生産者が多い。

除染後作付け初年目の湛水直播栽培前に2回の代かき均平作業を行うことにより、均平精度は向上する。

- (1) 排土板による均平後の均平精度は、最高値と最低値の差が 115mm で、バラツキも大きかった(表1、図1)。
- (2) 2回の代かき均平作業に伴ってバラツキは少なくなり、均平精度が向上した。
- (3) 2回目代かき後(5/8)の最高値と最低値の差は 72mm であり、これは基盤整備・田面整地の規格値 ± 35 mm(共通仕様書(農林水産土木工事編)、福島県農林水産部、2018年)を満たせなかった。

2 期待される効果

- (1) 除染後作付け初年目の湛水直播栽培の参考となる。

3 活用上の留意点

- (1) ほ場面積 20a、川俣町山木屋で実施したものである。
- (2) 除染後農地(表土剥ぎ及び客土)で水稻栽培を行う場合の均平作業は、作付け前の早期に取り組む必要がある。

II 具体的データ等

表1 田面均平精度の推移（基準高との高低差、mm）

項目	5月1日	5月7日	5月8日
	（入水、排土板による均平）	（代かき均平）	（代かき均平）
平均値	-5.6	4.0	-1.4
標準偏差	44.3	25.2	23.2
最高値	55.0	38.0	25.0
最低値	-60.0	-36.0	-47.0
最高値-最低値	115.0	74.0	72.0

注) 調査：当日の作業終了後に、9カ所のレベル測定を実施。

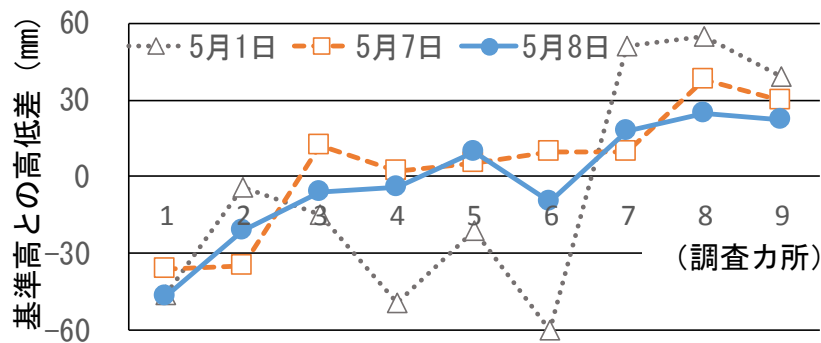


図1 田面均平精度の推移

作業：5月1日入水および排土板を用いた均平。5月7、8日代かき均平。

当日の作業終了後に、9カ所のレベル測定を実施。

III その他

1 執筆者

松木伸浩

2 実施期間

平成30年度

3 活用した技術のポイント(参考文献・資料等)

(1) 共通仕様書（農林水産土木工事編）（福島県農林水産部、2018年）